



あらためて「伝える・伝えあう」関係を

— 指導員アンケートより 編集部

保護者に、子どもの様子をはじめとする必要な情報を日常的に継続的に「伝えること」は、指導員の大切な仕事の一つです。また、「伝えること」を通じて指導員と保護者が「伝えあう」

関係を築くことは、双方の子どもへの視点をより豊かにすることにつながります。

私たちはこのことも含め、子ども・指導員・保護者が共に行う「子ども一人ひとりと、子どもたちの生活内容を豊かにするための継続的な営み」を「生活づくり」と呼んで大切にしています。

この間、「新型コロナウイルス感染

症」拡大にともなって、学童保育での伝えあいについてもさまざまな変化や悩みが生じていますが、そうしたなかでも工夫や努力を重ねている学童保育がたくさんあります。

◆ 一人ひとりの子どもの様子を伝える
……連絡帳、お迎えの際などの直接

の連絡、個人面談など。

◆ 学童保育での生活や子どもたちの様子を保護者全体に伝える……通信、保護者会など。

これらの方法や機会を、複数組みあ



わせて保護者と「伝えあう」関係を築いてきました。

コロナ禍のなか、制限せざるを得ないことが数多く生じていますし、状況は刻一刻と変化していて、そのときどきの苦勞や困難があります。

このたび、本誌のモニターをはじめとする指導員の方々にご協力いただき特集テーマの「伝えること」「伝え



あい」に関わってアンケートを実施しました（二〇二一年一〇月一八日の時点で、回答数五〇件）。

本稿では、その回答のなから、コロナ禍のなかでの取り組み、指導員の思いをいくつか紹介します。

変化・変更したこと、 工夫していること、 取り組むようになったこと

伝えたいこと、おうちでの子どもの様子を記して下さっていて保育の助けとなっている。

◆以前は二、三か月に一回だった「通信」を、月一回の発行とした。また、カラー印刷に変更し、配布とともに学童保育内に貼り出しています。回数を分けて人数規模を縮小し、保護者会も開催しています。

◆これまでどおり、「連絡帳」と月に二、三回の「通信」を実施。父母会で一堂に会するのがむずかしいが、父母会内で分担している各係の会議（少人数で開催）に指導員が参加して、子どもの様子を伝えることが、ようやく実現しそうです。

◆子どもの体調の確認と送迎時の接触の機会を減らすために、一人ひとりに「連絡票」を提出してもらおうようにした。連絡事項欄に保護者の方が

午後に分けて……など工夫して開催してきた。

◆これまで、「通信」は写真だけを掲載していましたが、よりくわしく学童保育の雰囲気をお伝えするために、エピソードを添えるようにしました。学年懇談会や保護者会の開催を見あわせざるを得なかったため、年に一回、個人面談を実施することにした。

◆お迎え時に保護者の方に施設内でゆっくり子どもの様子を見てもらえない状況がつづいています。子どもたちの様子をお伝えできれば……と、掲示板に子どもたちの活動の様子を写真で掲示するなどの工夫を行っています。

◆「通信」「連絡帳」によりいつそう力を入れることを心がけている。保護者会は「緊急事態宣言」中には中止したが、それ以外のときには、体育館を借りる、日程をずらす、午前・

◆感染対策のため、これまでも行っていた個人面談を、時間帯を分散させて開催するようにした。保護者全体に情報を届けるために、一斉メールの活用を導入した。

◆「連絡帳」を書き、「通信」をたくさん発行して、保護者の方に子どもたちの様子や大事にしたいことを伝えてきた。「できない」と思うより、「どうやったらやりたいこと、必要なことができるか」を考えることが